別添６－５（第３の２関係）

畜産ＧＡＰ拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和４年度）

都道府県名　北海道

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績（円）	うち交付金相当額（円）	
Ⅰ　日本版畜産ＧＡＰ指導活動の推進	畜産ＧＡＰ指導農業者数 100 経営体	108	108％	A	3,187,645	3,187,645	
Ⅱ　日本版畜産ＧＡＰ等認証の取得拡大	畜産ＧＡＰ認証等の取得経営体数 9 経営体	6	67％	C	775,200	704,728	

事業の成果

＜日本版畜産ＧＡＰ指導活動の推進＞

○　ＧＡＰ指導の中心的な役割を担うＪＡ営農指導員や農業改良普及指導員を対象に育成した畜産ＧＡＰ指導員が、農業者のレベルに応じて指導をすることにより、目標を超える108名の農業者が畜産ＧＡＰを実践する（「ＧＡＰをする」）ことができた。

＜日本版畜産ＧＡＰ等認証の取得拡大＞

○　各地域に配置した畜産ＧＡＰ指導員等が農業者団体や農業教育機関と連携しながら指導することにより、パイロット経営体（１経営体）及び１団体（５経営体）が認証を取得する（「ＧＡＰをとる」）ことができた。

都道府県による評価

○　畜産ＧＡＰ指導員の育成に向けた基礎研修会や地域関係者に対する研修会の開催を通じて、道内の指導体制を構築するとともに、畜産ＧＡＰ指導員等が、農業者の実践レベルに応じた指導を行うことにより、目標より多くの農業者がＧＡＰを実践する（「ＧＡＰをする」）ことができた。

○　地域のＧＡＰ指導員が積極的に指導支援を実施することにより、認証取得目指したパイロット経営体（１経営体）及び１団体（５経営体）の６経営体で畜産ＧＡＰ認証を取得できたものの、一部経営体が次年度以降に認証取得を見送ったことにより、目標の９経営体による認証取得を達成できなかったため、次年度以降の認証取得に向けて引き続き指導支援に取り組んでいく。

国による評価

・Ⅰ　日本版畜産ＧＡＰ指導活動の推進において、畜産ＧＡＰを実践する農業者の数は目標100名に対し実績は108名となっており、目標を達成している。また、令和４年度はＪＧＡＰ家畜・畜産物指導員基礎研修により21名の畜産ＧＡＰ指導員を育成し、年度末現在の指導員数は85名となったほか、ＪＧＡＰ家畜・畜産物団体認証研修により３名の内部監査員を育成し、年度末現在の内部監査員数は24名とＧＡＰの指導体制は着実に構築されつつある。

・Ⅱ　日本版畜産ＧＡＰ等認証の取得拡大において、目標９経営体（１パイロット経営体、１団体認証経営体（８新規追加経営体））に対し、実績は６経営体（１パイロット経営体、１団体認証経営体（５新規追加経営体））となっている。パイロット経営体については計画どおり認証取得できたものの、団体認証経営体のうち３未取得経営体については、畜産ＧＡＰを取得するための体制が整わなかったこと（２経営体）、団体認証取得から個別認証へ切り替えたこと（１経営体）が取得できなかった主因となっている。

以上のことから、日本版畜産ＧＡＰ指導活動の推進においては目標が達成されており、指導員育成のための研修会の開催、指導員による勉強会の開催や巡回指導により畜産ＧＡＰを経営の中で実践する農業者は増加している一方で、日本版畜産ＧＡＰ等認証の取得拡大については、目標未達成であることから、認証取得を目指す経営体の体制整備に関する指導など指導手法を検討するなどにより、令和５年度に目標が達成されるよう北海道農政事務所から改善計画を提出させる。